



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

ニュージャージー日本人学校における英語教育

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-05-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 磯谷,悠子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173992

ニュージャージー日本人学校における英語教育

前ニュージャージー日本人学校 教諭

千葉県我孫子市立根戸小学校 教諭 磯谷 悠子

キーワード：アメリカ、英語、ESL、交流

1. はじめに

2013年4月よりアメリカ、ニュージャージー州の日本人学校で勤務するという貴重な経験をさせていただいた。言語が英語という中で生活している子どもたちが、どのような学習をして力をつけているのか以下に紹介していきたい。

2. New Jersey (以下NJ校) のカリキュラム

(1) 時間割について

初等部・中等部と同じ校舎で学習するため1コマは45分、月曜日から木曜日は6時間授業、金曜日は7時間で授業を実施してきた。低学年にかかる負担はあるが、時間にゆとりがある分、ゆとりの時間を確保することもできていた。中学年・高学年については、各教科の必要時数の上にさらに英語での学習が入ってくるため多少きつくなるところはあった。英語での学習は大きく2つに分かれている。1つ目はESL (English as a Second Language) という英語の学習、2つ目はEnglish Activityという、いわゆる外国語活動である。ESLは、低学年が週4コマ、高学年は週3コマ、English Activityについては、週1コマ時間割に組み込まれている。

(2) 英語の活動

① ESL

米人講師によるレベル別の指導で行われる。1～3年生は3グループ、4～6年生は4グループに分かれて学習していく。中心となるものはFONIXというテキストである。学習の中に、カレンダーを確認する時間、FONIXの時間、歌の時間、読み聞かせの時間、インタビューの時間などが入っている。

毎回同じような活動を繰り返すことで、はじめは英語が全く分からなかった児童も、少しずつ力をつけていく。学習する内容によっては、教室内の違う場所を使って行う。上の写真は教室の全面ではなく、横の壁である。毎日英語に触れる環境があることで、子どもたちはいつでも英語に触れ、必要な言葉を探して使うことができる。



フラッシュカードやAからZまでを唱える発音練習、歌が英語を身につけるのに、大変有効な手段だと感じた。

② English Activities

外国語活動をして週1時間、どの学年も活動をおこなった。ESLとは違い、クラス単位で学習していく時間である。内容は、理科や社会で学習しているものを中心に行っていく。米人講師が主となり、授業が展開されていく。全て英語による授業であるが、理科で学習した生き物の成長や天気の仕事など、日本語で学習したものを英語で学習していくので、子どもたちにとっては理解しやすい内容になっている。

3. 英語を生かしての実践

①学校行事の中で

1年に1度、学芸会的なメイプル祭という行事がある。内容としては、初等部みんなで発表をするというものである。派遣2年目に、この行事の主担当になった。せっかくやるのであれば、子どもたちに何かが身につくものであってほしいと考え、ESLの先生に相談をし、劇中に劇のイメージにある英語の曲を使用した。英語での台詞劇も入れた。

使用した曲

Keep Holding On	—	Avril Lavigne
Don't stop	—	Glee
Michael Jackson	—	Man In The Mirror
Happy	—	Pharrell Williams

子どもたちの活動は1～6年生までの縦割り班で行った。どの曲も簡単ではない。発音が難しかったり、リズムが難しかったりと大変であったが、自分のグループが担当する曲をESLの時間を少し使って練習する時間を確保した。劇の中で使用するというので、劇の中ではただ歌うだけではなく、その曲と劇にあった振付をしていかなければならなかった。これも児童が主体となって考えさせていった。英語に自身のない子については、動画のサイトを教え、家でも練習ができるようにした。最終的には、自分の課題の曲だけでなく、全部の曲を歌えるようになっていた子がたくさんいる状態であった。進んでほかのグループの歌も練習したようである。子どもたちの意欲がプラスされたことで、さらにできることが増えていっていたのが実感できた。

②総合的な学習の時間に

NJ（総合的な学習の時間を意味する：以下NJと称す）では、学年ごとに年計に合わせた取り組みをした。派遣3年目は、教員が1名減ったこともあり、3・4年生が1つのクラスになった。昨年度まで実施していたものでは、学年が違うため新たに計画をたてた。

アメリカで生活している子どもたち、では、いったいどれくらいアメリカのことを知っているのかな？というところから学習が始まった。知っているようで知らないことがあることに気づき、まずは自分たちの住んでいる州について調べてみた。それからは、自分の興味のある州を見つけiPadを活用し、個人の調べ学習が始まった。調べ終わるとそれをまとめ、発表会を行った。

その後、子どもたちとESLの先生にも教えてあげたいね、という話をし、英語に訳す取り組みが始まった。とは、いっても日本語で話したこと全てを英訳するには難しすぎるので、言いたいことを10個だけ決め、それを英語に訳す活動にした。友達に教えてもらったり、9年生の教室を訪れて教えてもらったりと子どもたち同士の関係がうまくいっていたのでできた取り組みである。英語での文章ができ、最終チェックでOKがでるとあとはひたすら練習をして、その後は発表会を行った。他学年にも聞いてもらった。

③フルーツピッキングで

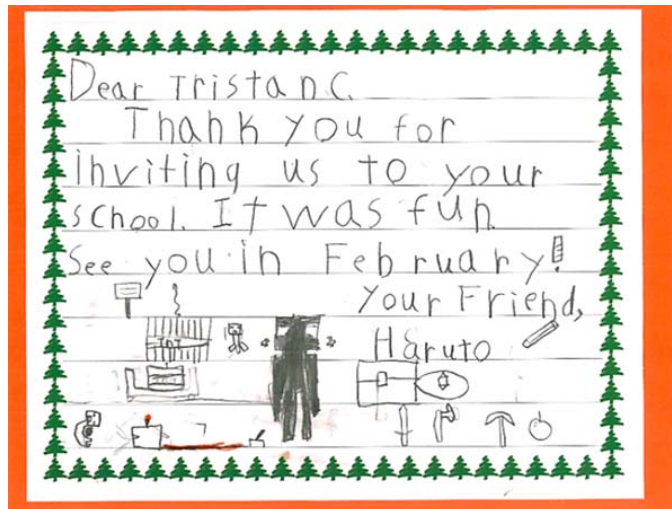
1～3年生は、年に1回フルーツピッキングに行くという行事がある。1・2年生は生活科、3年生についてはNJとして扱うものである。3年生ということで、行く前にその年にピッキングするフルーツの調べ学習を行った。その中で、疑問に思ったことを出し、直接ファームの方に聞くという活動にもっていった。聞くためには、英語に直さなければならなかった。まずは、できるところまで自力で英語に直させた。中途半端ではあるが、それを事前にお願していた米人のナースに聞いてもらった。すると質問したことで上手く伝わらないものについては、自分で補足説明をしたり、ナースが「こういうこといいのかな？」と聞いてくれたりして、そのかわりの中で正しい質問文も出来上がっていった。

当日は、チケットを自分で買う活動があったが、それだけでなく、時間を見つけてファームの方に直接質問を

させてもらった。質問に答えてもらって理解できないものについては、何度か説明をしてくれたのでわかりやすかった。

④学校間交流 School Exchange

学校の近くにある現地校と1年に2回の交流を行った。1回は招待、1回は訪問するというものである。事前に教員の話し合いで、子どものパートナーを決めておく。交流の中にパートナーミーティングという時間があり、1対1、または1対2で英語で会話をしないといけない時間である。当日までの間に子どもたちは、質問カードを使って練習したり、答えを決めておいたり、能力にあった練習を事前しておいた。活動の中にはゲームもあり、楽しんで活動しながらも英語でのかかわりができるととても良い機会である。



4. おわりに

3年間アメリカで勤務をするという大変貴重な機会を頂いた。その中で、子どもたちが英語学習に取り組む姿やESL講師の教え方など、勉強になることがたくさんあった。これからは、日本の小学校にも英語が必要になってくる。日本の子どもたちが楽しく学習に取り組めるよう学習形態を考えていきたい。

まずは、英語に触れる機会を多いことが大切である。たくさん語彙を知ること、使う機会も増えてくる。使う機会が増えれば、自信もついてくる。自信がつけば、さらに使う機会も増えてくるので、英語に親しむ時間をできるだけ多く作っていききたいと思う。歌を歌う活動は、大変かもしれないが、歌の中でたくさんの英語を知ることができるのでとても良い。

身につけることも大事であるが、それを生かす場があることで、より学ぶ楽しみも増えると思う。場の設定や内容をしっかりと考えて取り組んでいくことが大切である。まずは、外国語活動の時間だけに限らず、掲示物や日々の活動の中で英語にかかわる機会を作っていきたいと思う。

校外で活動する際は、担当者が直接相手とコンタクトをとり、英語でやりとりをしなければならない場面があった。英語で交渉することの難しさを身をもって体験することができたが、子どもに英語を学ばせるためには、教師自身も勉強が必要である。少しでも英語の力をつけることができるようしっかり勉強していきたい。